



岩国市の維持向上すべき歴史的風致

<計画期間>
令和6年度（2024）～令和15年度（2033）

岩国市は、広島県と山口県の県境に位置し、穏やかな瀬戸内海や錦川の清流などの豊かな自然に恵まれています。関ヶ原の戦いの後に、毛利元就の孫である岩国領主となった吉川広家によって、岩国城や城下町が整備されたことが現在の岩国市の礎となりました。山代神楽や岩国行波の神舞などの民俗芸能や周防祖生の柱松行事、錦川の清流による酒造りなどが現代に継承され、岩国市固有の魅力的な歴史的風致を形成しています。

1. 岩国城下町の営みにみる歴史的風致

岩国城下町は、錦川兩岸にある岩国城や吉川家居館のある地区と町人地や寺町のある地区が5連橋の錦帯橋によって結ばれることによって成立している稀有な城下町です。

その岩国城下町は、吉香神社をはじめとした多くの歴史的な建造物と春の桜や夏のう飼で多くの人を楽しませるだけでなく、奴道中等のさまざまな民俗芸能が受け継がれており、それらが錦帯橋まつりで披露されています。



錦帯橋まつり



錦帯橋のう飼

3. 山代神楽にみる歴史的風致

山代神楽は、本市の北部・山代地域に継承されている神楽の総称です。山代神楽は地域の秋の例祭に拝殿や神楽殿で奉納され、多くの人々がその舞や楽師の演奏に集います。

人口減少や生活様式の変化によって歴史的建造物の維持も困難な時代ですが、山代神楽が継承され、地域の神社で奉納されることによって、地域が一体となって歴史的建造物である地域の神社の維持や管理にも繋がっています。



山代神楽（写真は向峠神楽）



山代神楽（写真は山代白羽神楽）

2. 錦川の恵みに育まれた営みにみる歴史的風致

清流として知られる錦川は、江戸時代の岩国城下町の成立と川舟による水運の発達によって、上流域・中流域・下流域で独自の文化や産業が開花しました。

清流の恵みを活かした米作りや酒造り等の地域独自の産業活動と、その活動によって維持されてきた歴史的建造物や岩国行波の神舞をはじめとした祭礼行事が、錦川を中心とした人々の営みとして受け継がれています。



南河内・椎尾八幡宮・天神祭



岩国行波の神舞

4. 玖西盆地の伝統行事にみる歴史的風致

玖西盆地は、古来より山陽道が中心を通ることで宿場町として発展した歴史と、島田川の流域に広がる田園地域としての顔を持ちます。

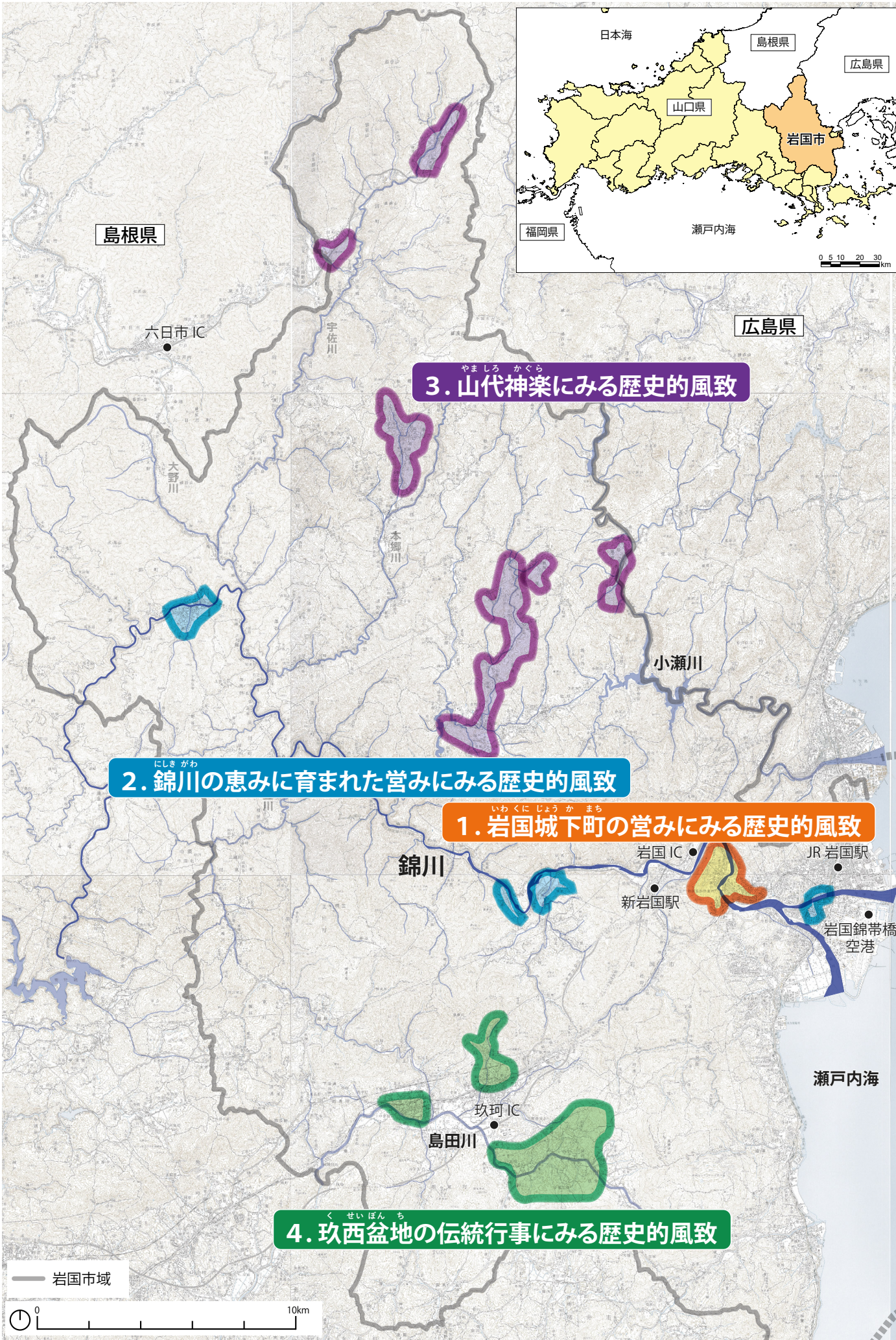
山陽道の宿場町としての賑わいを現代に伝える高森天満宮天神祭や田園地域で受け継がれてきた周防祖生の柱松行事をはじめとした伝統行事が地域の人々を繋ぎ、地域の歴史的建造物も大切に受け継がれています。



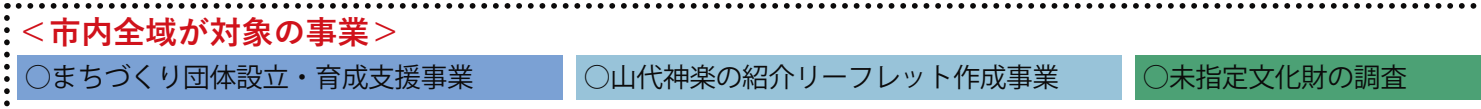
高森天満宮・天神祭



周防祖生の柱松行事



■重点区域及び事業の位置



4)- 5 未指定文化財の調査

岩国市博物館基本計画に基づき、新館建設と岩国徴古館の改修を実施し、一体で博物館として整備するものです。